

2 教材の活用の仕方



(1) どのような教材を用いたらよいだろう？

①主たる教材としては教科書を使用しなければなりません。しかし、道徳教育の特性を考えると、地域に根ざした郷土資料など、多様な教材を併せて活用することが重要です。



学習指導要領では、道徳科で用いられる教材として備えるべき要件を3点挙げています。

- ア 児童生徒の発達の段階に即し、ねらいを達成するのにふさわしいもの
- イ 人間尊重の精神にかなうものであって、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、児童生徒が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるもの
- ウ 多様な見方や考え方のできる事柄を取り扱う場合には、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないもの

これらの他に、教師自身が感動し魅力を感じているものや児童生徒の生活背景などの実態を配慮したものといった要件も大切です。

道徳科に用いる教材は児童生徒が道徳的価値の自覚を深めていくための手掛かりとして極めて大きな意味をもっています。また、児童生徒と教師が人間としての在り方や生き方などについて多様に感じ、考えを深め、互いに学び合う共通の素材として重要な役割を持っています。



②道徳科の特質を生かした展開が可能となるように活用することが大切です。

教材には、読み物教材、映像ソフト、写真、漫画、紙芝居、講話など様々なものがありますが、道徳科の特質を生かした展開になるように活用することが大切です。教材の選択に際しては、児童生徒の興味を引くことのみならず、道徳科の目標や特質を踏まえて「この教材で何を考えさせるのか」という授業のねらいの観点から選択する必要があります。教材を効果的に生かすには、登場人物の立場に立って自分との関わりで道徳的価値について理解したり、そのことを基にして自己を見つめたりすることが大切です。また、教材に対する感動を大事にする展開、道徳的価値を実現する上での迷いや葛藤を大切にしている展開、知見や気づきを得ることを重視した展開、批判的な見方を含めた展開にするなどの学習の指導過程や指導方法の工夫も大切です。

いずれにせよ、教材から読み取れる価値観を一方向的に教え込んだり、登場人物の心情理解のみに偏ったりした授業展開にならないようにするとともに、児童生徒が道徳的価値を自分との関わりで考えることができるように留意することが大切です。



(2) なぜ「読み物教材」がよく活用されるのだろうか？



「自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習」を構想することが比較的容易であると考えられます。（ ）は中学校



その他に……

- 想像力を働かせることができる。
- 考える力を養うことができる。
- 児童生徒に考えさせたい箇所でも何度も振り返らせることができる。
- 人間らしい生活が描かれており、よりよい生き方についてじっくりと考えることができる。
- 授業後に何度も読み返すことができる。
- 家庭に持ち帰り、話題にすることができる。

などが挙げられます。

道徳科の授業で活用するために作成された教材には様々な形態のものがあります。教材の分類には様々なえ方がありますが、道徳科の特質を踏まえ、以下の3分類を押さえておくと授業の準備がスムーズになります。

- ① 主人公の生き方や、道徳的価値に関する意識が変化するもの
- ② 話の舞台になっている「場」が道徳的なものに変化するもの
- ③ その他

児童生徒が生き方について深く考え、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める」学習を展開するためには、①や②の教材が活用しやすいでしょう。

道徳科の学習では、児童生徒が、教材の世界に浸り、主人公に自分を重ねて生き方について考えます。客観的に外から主人公の生き方を考えるのではなく、いわば主人公の着ぐるみを着たように主人公になりきって、自分の事として考えさせることが大切です。



(3)「読み物教材」を吟味するときのポイントは何だろう？

教材に描かれている道徳的価値とその論点の展開を明確に捉えることがポイントです。その際、教材の構造を図にするとわかりやすいです。



まずは、次のことをポイントに、大きく構造を捉えよう！

①生き方が道徳的に変化したのは、だれですか？何ですか？

変化した人物が主人公です。例外もありますが、基本的に主人公の視点で話を読んできます。

②主人公の生き方はどこで変化しますか？

この場面が中心場面となり、中心的な発問をする箇所になることが多いです。

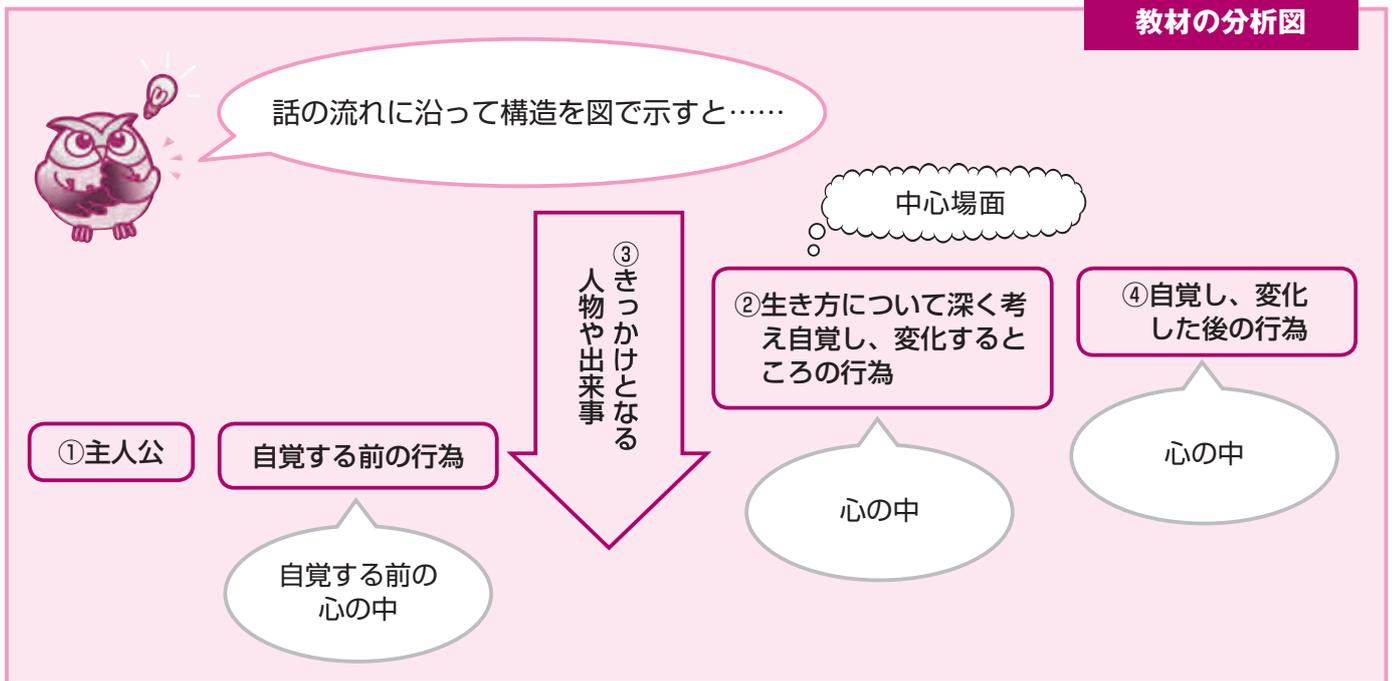
発問と児童生徒の予想される答えを考え、多様な意見が出にくい場合、④の自覚したあとの行為を取り上げて発問することもできます。

③主人公が変化したきっかけは何ですか？

きっかけとなった事柄や人物の行為が内容項目を考える際の大きなヒントになることが多いです。

④主人公は、自覚した結果どのような行為をしましたか？

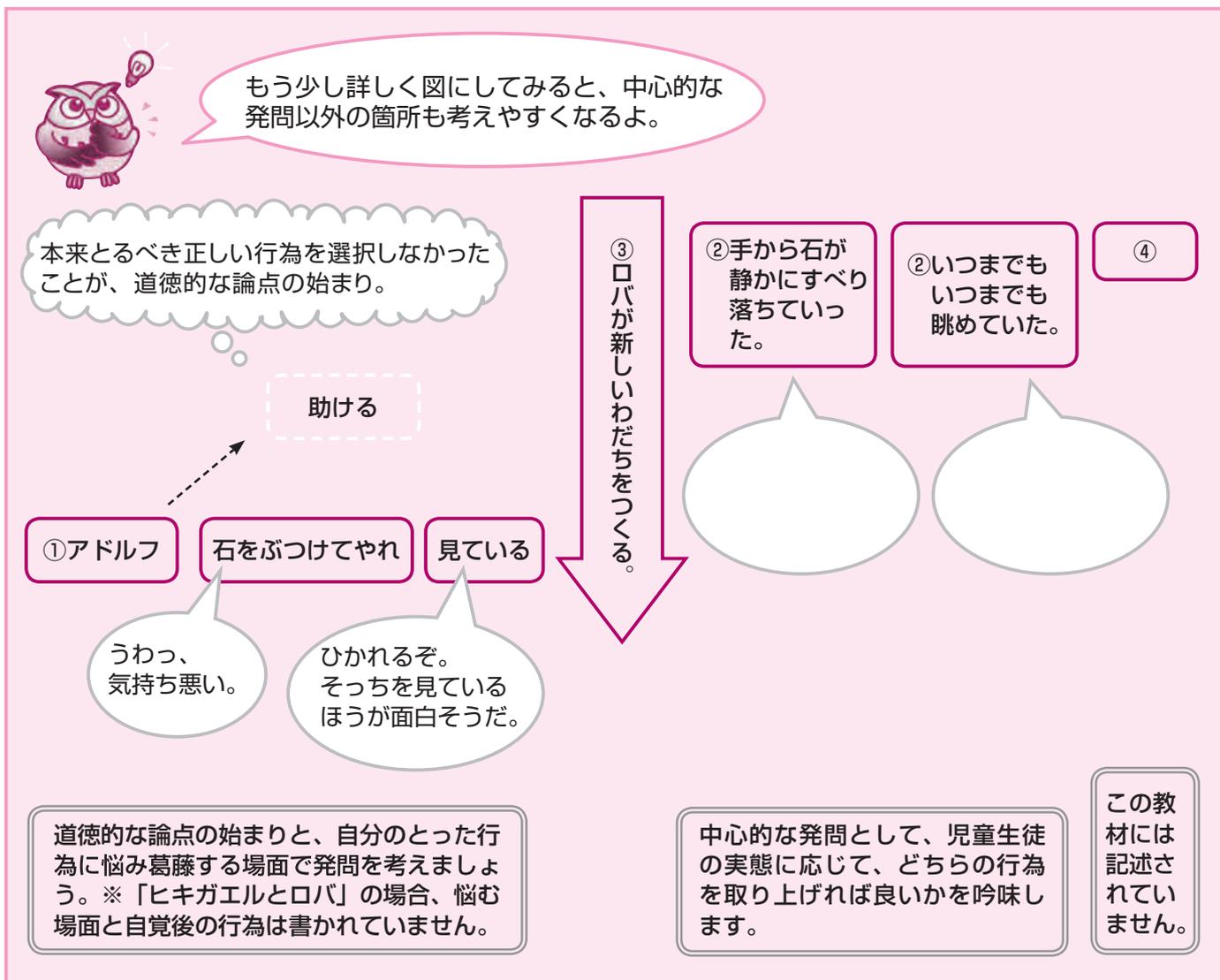
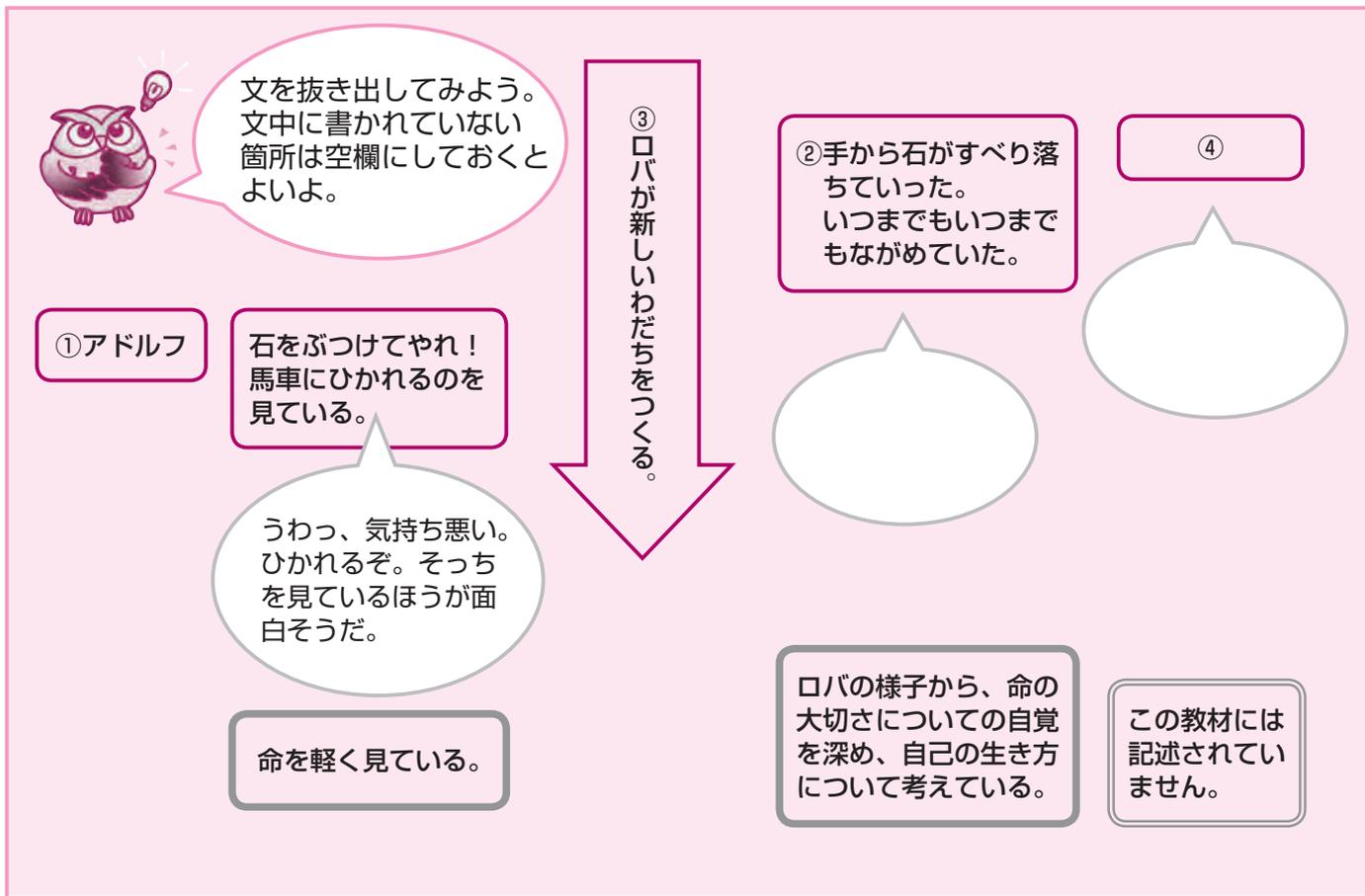
教材の分析図



例えば、「ヒキガエルとロバ」(「私たちの道徳」文部科学省)の教材で考えると・・・(指導案はP.30)

◆◆◆教材の概要◆◆◆

主人公のアドルフが、ヒキガエルを見つけ「気持ち悪い」と言って石を投げつける。そのとき、荷車を引いたロバがやってくる。ロバはやせていて、耳も聞こえず目も見えないほど年をとっており、重い荷物を乗せている。ヒキガエルが荷車にひかれそうになるのを面白がって見ようとしていたアドルフだったが、ロバはヒキガエルを見つけると、渾身の力を振り絞って新しい轆をつくり、ヒキガエルの横を通り過ぎた。それを見ていたアドルフの手から石が静かにすべり落ちた。アドルフは、くぼみの中で小さく息をしているヒキガエルと、遠く去っていくロバの姿を、いつまでもいつまでも眺めていた。





(4) 指導案を作成する際のポイントは何だろう？

どの道徳的価値について考えるかを明確にし、授業の山場となる中心的な発問をまず考えます。次に中心的な発問でねらいに迫るために必要な基本発問等を考えます。



①年間指導計画に示されている主題名とねらいを確認し、学級の実態と照らして指導内容や目標を具体化する。

【指導案作成までの流れ】

①ねらいを検討する。

②教材に描かれている道徳的価値とその論点がどのように展開しているかを捉える。例えば副詞に気を付けて読むと、心の動きが見えやすい。

③児童生徒に一番深く考えさせたい箇所、授業の山場になるところ。主人公の行為や意識が変化したところの場合が多い。

②教材を読む。

③中心となる場面を考える。

④児童生徒から多様な答えが出てくるような問い方を工夫する。

④中心的な発問を考える。

※主題・内容項目・ねらいと一致しているかを確認する。

教師の期待する答えではなく、プラス、マイナス両方の「予想される答え」を考える。

⑤中心発問に時間をかけることが大切なので、基本発問は多くなりすぎないように注意する。

⑤中心的な発問を生かすための前後の発問を考える。

「予想される答え」は授業者がねらいとする道徳的価値と一致しているだろうか。異なる場合は、問い方や問う箇所を再検討する必要がある。あるいは、内容項目に対する理解不足、本教材の道徳的な解釈が不十分ということが考えられる。



板書計画も用意しておこう。

教材には、いくつもの道徳的価値が含まれていますが、道徳科の学習ではその中で最もふさわしいもの一つに絞ることが大切です。道徳科の学習は、その道徳的価値について児童生徒が自覚を深め、生き方について語り合い、多様な考え方に気付き、よりよい生き方への動機付けになるような学習にならなければなりません。児童生徒と教師が共に考え、共に語り合うことが重要なポイントです。

教材の吟味は、学年の教師など複数で行うと、多様な考え方や意見を交流することができます。また、授業後には、指導案や年間指導計画に留意点等を加筆しておくことと次年度の計画に反映しやすくなります。



(5) 発問のポイントはどんなことだろう？

まず中心的な発問から考えます。主人公の行為や生き方、話の舞台となる「場」が道德的に変化する箇所が中心場面です。中心場面またはそのあとの箇所で発問を考えることがポイントです。



多様な発言を引き出す発問にするために……

「こころ」が直接書かれていない箇所でも問い、多様な意見を引き出します。

「どうすればよかった？」と行動のみを問うのではなく、「こころ」を考える発問をします。

「気持ち」ばかりでなく、判断理由や意欲を問うことも大切です。

教材を読む際と同様に「副詞」を丁寧に扱います。

児童生徒の予想を超える発問で、深く考え新しい学びが得られる学習を目指します。

基本発問が多くなりすぎないように気をつけます。

違う角度・立場から考える問いで、考えが深まることもあります。

授業中には……

単語だけの発言に対しては、くわしく聞き出します。

中心的な発問にたっぷり時間をかけ、じっくりと児童生徒と共に考え合い、語り合います。

その他に……

主人公が道德的に変化せず、主人公の行為を取り上げて、その行為を支える心を問うことができない教材の場合は、感動の正体を探り、それに照らした生き方を考える発問をすることも一つの方法です。

「道德的価値の自覚」については、発達の段階に応じて多様に考えられますが、次の三つの事柄を押さえておく必要があります。

一つは、道德的価値についての理解です。道德的価値が人間らしさを表すものであるため、同時に人間理解や他者理解を深めていくようにすることが大切です。

二つは、自分との関わりで道德的価値が捉えられることです。そのことにあわせて、自己理解を深めていくようにすることが大切です。

三つは、道德的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるようにすることです。その中で、自己や社会に希望がもてるようにすることが大切です。

人格の基盤を形成する小学校の段階においては、児童が道德的価値の自覚を深め、自己の中に形成された道德的価値を基盤として、自己の生き方についての考えを深めていくようにすることが大切です。また、中学校の段階においては、道德的価値に裏打ちされた人間としての生き方についての自覚を深めることが肝要です。



(6) 心に響く授業にしたい！
そのためのポイントは？

信頼関係や温かい人間関係を基盤に、教師と児童生徒が共に考え、よりよい生き方を求める姿勢が大切です。
以下に、5つのポイントにまとめて示しています。



① 共に考え、ともに語り合う姿勢をとる

教師が一方的に考えを押しつけたり、単なる生活経験の話をしたりするのではなく、道徳的価値を窓口に生き方について考え合う時間となるように工夫することが大切です。児童生徒と教師は、立場が違って、人間として対等であり尊重する姿勢が大切です。

② 「なるほど！」と受け入れる

「あなたはそう考えたんだね。」と児童生徒の発言は一旦受け止めます。児童生徒が本当に言いたいことは何かを考え、言葉の根っこにある心の声に耳を傾ける姿勢が大切です。

③ 「もう少し詳しく聞かせて！」

例えば、「うれしい」という言葉の中の、何がうれしいかは、児童生徒それぞれで異なるはずです。



④ 授業経験を積む

道徳科は年間35時間（小学校1年は34時間）しかありません。大切にしたいものです。

⑤ 輪を広げよう

授業で考えさせた内容や書かせた感想を、学級通信や道徳通信等で、学級内、保護者や地域社会、学年や学校の教職員で共有することで、相互理解に役立つはず。また、道徳科に関する話題が職員室で広がるのが望ましいです。授業計画を立てるときにも気軽に話し合える雰囲気を大切にしたいものです。



(7)「京の子ども
明日へのとびら」
とは、どのような
資料だろう？

京都府教育委員会が作成し
た「心の教育」学習資料集
です。道徳教育の様々な場
面で活用できます。



「京の子ども 明日へのとびら」

京都府教育委員会では、児童生徒の豊かな心をはぐくむために、人間としての生き方を見つめ、ともに学び、考え合う京都府独自の「心の教育」学習資料集「京の子ども 明日へのとびら」を作成しました。平成19年4月から、全小中学生に配布し、様々な時間での活用が進んでいます。

掲載されている学習資料

小学校・低学年編

- | | |
|---------------------------|--------|
| 1 あなたへの おくりもの | 永田 萌 |
| 2 わたし、あなた、家ぞく | 瀬尾 まいこ |
| 3 ごっこあそびを しよう | 中西 進 |
| 4 ふたり | 今江 祥智 |
| 5 むかしの 子ども | 澤田 ふじ子 |
| 6 人を 思いやる 心も、
人との つながり | 日野原 重明 |
| 7 ジャッカルと チンパンジー | 梅原 猛 |
| 8 友だち 何人 できるかな | 内田 奈織 |
| 9 思いやりの 心をもつて | 江口 克彦 |
| 10 まわりの けしき・心の 目 | 永田 和宏 |
| 11 絵が すき・人が すき | 畠中 光享 |

小学校・中学年編

- | | |
|--------------------------------|-------|
| 1 そうじする | 梶田 真章 |
| 2 すてきな人 | 山本 兼一 |
| 3 分かち合う心 | 河合 雅雄 |
| 4 ゆめをかなえるために | 武田 美保 |
| 5 生命はえいえんか？ | 岡田 節人 |
| 6 いっしょにがんばってみようか | 西本 吉生 |
| 7 自分って、何だろう | 鷲田 清一 |
| 8 勇気。それはゆめのとびらを
開けるかぎ | 佐渡 裕 |
| 9 小学生のころ | 本庶 佑 |
| 10 大志をいだけ | 松尾 心空 |
| 11 「楽書」のすすめ
—書くということ— | 石川 九楊 |
| 12 ねこはどこまでわがままか
—人はどこまで動物か— | 日高 敏隆 |
| 13 植物とわたし
—北海道ですごした少年時代— | 河野 昭一 |
| 14 京都というところ | 村井 康彦 |



小学校・高学年編

- | | |
|------------------------|----------|
| 1 桜の色の話 | 志村 ふうみ |
| 2 いのちの尊さを自覚しましょう | 上田 正昭 |
| 3 「いのち」を深く愛する | 中西 進 |
| 4 サンゴの心配 | 日高 敏隆 |
| 5 Tさんとアフリカの子どもたち | 徳川 輝尚 |
| 6 心の痛みを分かち合う | 安藤 仁介 |
| 7 「テクノボー」になりたい | 山折 哲雄 |
| 8 祖父の話 | 小寺 正一 |
| 9 自分をつくる楽しさ | 衣笠 祥雄 |
| 10 見ること、見せること | 茂山千三郎 |
| 11 言葉の力
一俳句との出会いなど一 | 坪内 捻典 |
| 12 感動する心、熱中する心 | 鈴木 俊哉 |
| 13 木版画であらわす日本の美 | 木田 安彦 |
| 14 美しきふるさと京都 | 崔 善今 |
| 15 わたしが出会った日本 | ドナルド=キーン |
| 16 日本で育ちゆくきみたちへ | 千 玄室 |

京都府教育委員会では、この指導資料を活用して指導を進める際の参考例として、実践事例集を作成し、ホームページで公開しています。
<http://www.kyoto-be.ne.jp/knavi/asuhenotobira/>



「京の子ども 明日へのとびら」は、「これはまさに、英知を結集した人生読本」と新聞報道されるなど、京都府はもとより他府県の多くの方々から好評を博し、平成19年7月から小・中学校版を1冊にまとめて市販されています。

中学校編

- | | |
|-----------------------------|--------|
| 1 長寿国・日本とは？ | 山折 哲雄 |
| 2 君の胸にも勲章を | 伊藤 謙介 |
| 3 “生きている”をよく見て考えよう | 中村 桂子 |
| 4 人道の輝く世紀を目指して | 上田 正昭 |
| 5 医者という仕事
一人間の病と健康を見つめて一 | 澤田 淳 |
| 6 そして今日もまた | 向山 ひろ子 |
| 7 友達をつくる
一傷つくことを恐れすぎない一 | 梶田 真章 |
| 8 善き思いを抱き、善き行いをする | 稲盛 和夫 |
| 9 音楽と人の心 | 廣瀬 量平 |
| 10 シンパシー（共感）を
たいせつに | 村田 純一 |
| 11 ライフワーク 一映画の魅力一 | 龍村 仁 |
| 12 わたしと自然、自然な自由 | 西島 安則 |
| 13 母なる自然の恵み | 河合 雅雄 |
| 14 ぼくのだいすきな日本 | 久木 久代 |
| 15 国の言葉と文化
一日本語と韓国語一 | 曹 承鉉 |
| 16 一期一会の教え
一平和への祈りを深める一 | 千 玄室 |
| 17 道徳の源は母心 | 梅原 猛 |

